

区町村名	福岡県岡垣町	担当部署	おかがき PR 課
		電話番号	093-282-1211
		所属メール	okapr@town.okagaki.lg.jp

### 1 取組事例名

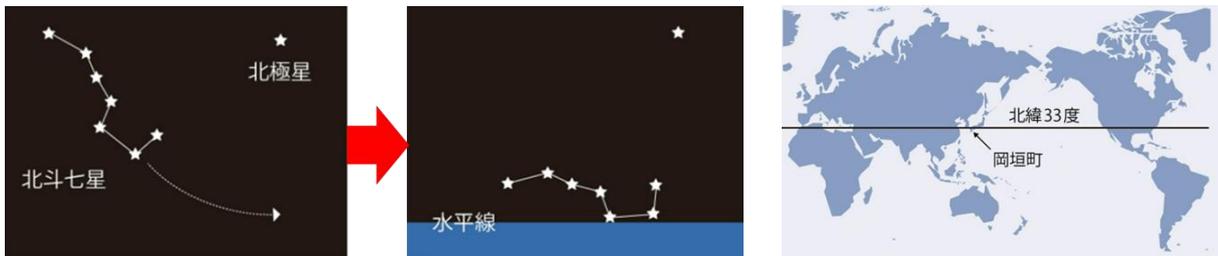
スマホゲーム「北斗の拳 LEGENDS ReVIVE」とのコラボによる町のPRと観光振興

### 2 取組期間

令和5年9月1日（金）～令和5年11月26日（日）

### 3 取組概要

岡垣町波津海岸では、北斗七星のひしゃくがあたかも水平線の水をくむように見える世界でも珍しい「北斗の水くみ」を見ることができる。これは、北緯33～34度に位置し北に水平線がある風景の場所ではしか見ることができない。その条件を満たすのは世界広しと言えど、北部九州の一部のみで、岡垣町の海岸はその条件にかなった、数少ない観望ポイントとなっており、この「北斗の水くみ」を観光資源としてPRに取り組んでいる。



この「北斗の水くみ」の北斗にちなんで40周年を迎える「北斗の拳」のスマホゲームとコラボして町のPRと観光振興に繋がる様々なイベントを実施。



### 4 背景・目的

岡垣町は、町外への情報発信を強化することを目的に令和4年度に「おかがきPR課」を新設した。町の魅力発信を充実させ、町の認知度向上を図る様々な取り組みを実施していく中で、インパクトのある新たな取り組みが必要であると考えた。そこで、町の地域資源である「北斗の水くみ」という天体現象に注目し、「北斗七星」をキーとして人気漫画の北斗の拳とコラボすることで「町おこし」ができないかと考え、出版社へ企画提案を行い、コラボ企画の実現にいたった。

## 5 取組の具体的内容

岡垣町の世界的にも珍しい「北斗の水くみ」という天体现象と令和5年に40周年を迎える北斗の拳のスマホゲーム「北斗の拳 LEGENDS ReVIVE」がコラボし、双方のPRが可能となるよう以下の企画に取り組んだ。コラボ期間は、北斗の水くみの観望のおススメ期間である9月～11月までとした。なお、取組に際しての実施体制は観光協会が実施主体となり、商工会や飲食店をはじめとする観光事業者と連携した仕組みづくりを町で構築し企画運営全般のマネジメントを行った。

### ①イラスト展の開催

町の観光案内の発信拠点である観光ステーション北斗七星及び隣接するサイクリングの休憩施設リンリンクラブ岡垣で特別イラスト展を実施。

### ②コラボ商品、コラボメニューの開発・販売

地域経済の活性化と事業者の売り上げ増加、町の魅力発信を目的にコラボ期間中に使用できるデザイン等を利用して、コラボ商品、コラボメニューの開発、販売を行った。また、購入者には限定クリアファイルなどをプレゼントし、商品の販売促進を行った。

### ③スタンプラリー

町の観光施設等にキャラクターパネルとスタンプを設置し、北斗七星にちなんで町の観光施設「7か所」を周遊するスタンプラリーを開催。様々なスポットを巡る仕掛けとすることで、町の観光施設を知ってもらうキッカケにするとともに、町の魅力発信につなげることを狙いとした。

### ④まつり岡垣でのイベント

町最大のまつりであり、毎年約2万人が来場する「まつり岡垣」に「北斗の拳 LEGENDS ReVIVE」コラボブースを設置。

### ⑤PR動画の作成



イラスト展の様子



コラボ商品の例



スタンプラリーの様子

## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

岡垣町の波津海岸は、北斗七星が海水をくむ姿を見ることができる、世界でも珍しい海岸である。その海岸沿いに立地する観光ステーションの施設名も町の観光情報をくみ上げ、多くの人に情報発信したいとの願いから「北斗七星」と名付けられている。星空観望会などを実施し、町の観光資源としてPRしてきたところであるが、更なるPRが必要と考え、「北斗の拳」とどうにかコラボできないかと、出版社に依頼したところスマホゲーム「北斗の拳 LEGENDS ReVIVE」とのコラボが実現。

スマホゲーム内にも岡垣町が登場するなど、話題性は抜群であり、地元メディアを中心にテレビ・ラジオ・新聞・ネットニュースなどあらゆる媒体で取り上げられた。

イベント等の企画立案に際しては、全職員に向けて企画案を募集するなどして、全庁的に取り組んだ。また、出版社に対しては「どうしてもコラボして町おこしをしたい」という熱い気持ちを伝え、何とか実現した。また、ファンが訪れて喜ぶ仕組みづくりと当町の観光の課題である周遊できる仕組みの不足を解決するための企画として特別イラスト展やスタンプラリーを企画するなどの工夫を行った。

## 7 取組の効果・費用

総事業費は、約 390 万円で、そのうち約 4 割は県補助金を活用。

### ①イラスト展

約 1 か月の期間の来場者は約 4,000 人。北海道や東京都など遠方から訪れる人も多く、この企画によりはじめて当町に訪れた又は知ったという声も多く聞かれ、町を知ってもらおうキッカケとなった。

### ②コラボ商品、コラボメニューの開発・販売

19 商品、商品数約 9 千個を販売。町内事業者の売り上げ増加、地域経済の活性化につながった。

### ③スタンプラリー

22 の観光スポット中、7 か所を巡るスタンプラリー。各スポットに計 4165 回訪問された。スタンプラリーのスポットに設定した飲食店などからは購買につながるなど大きな効果があったとの声も聞かれた。また、周遊観光の促進、観光スポットの認知度向上に大きくつながった。

### ④メディア露出

地元メディアを中心にテレビ・ラジオ・新聞・ネットニュースなどあらゆる媒体で取り上げられ、広告効果としての費用対効果は非常に高かった。

テレビ：10 回以上、新聞：4 社

また、X（旧ツイッター）などの SNS への投稿も多くみられ、話題となった。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

・事業実施までの期間が非常に短く、タイトなスケジュールの中、各種イベントを実施したこと（企画から販促物等のデザイン決定など関係者と何度も協議を重ねた）

・各種イベントの企画運営を専門業者等への委託を行わずに、すべて直接行ったため、参加者に満足いただけるか不安であったが、アンケートに「満足だった」「通年でやってほしい」などの声をいただくことができ安堵した。

・コラボ期間を 3 か月に設定したが、イベントのメリハリが難しく、尻すぼみした感があったところが反省点である

## 9 今後の予定・構想

- ・コラボ企画により、町の知名度向上に寄与したと考えている。「北斗の水くみ」をさらにPRできるよう、このコラボ企画が継続できるよう取り組みたい。
- ・今回のコラボ企画による成功体験をもとに、これまでの行政の考え方や枠にとらわれることなく、独創的な発想で町のPRや地域経済の活性化に取り組みたい。

## 10 他団体へのアドバイス

- ・一つの発想から、その事業を実現するためには「行動力」が重要であると認識しました。
- ・「ダメ元」の精神で「まずは、やってみる」、実現したいという熱い気持ちの関係者の心を揺さぶるのではないのでしょうか。

## 11 取組について記載したホームページ

- ・イベントが終了しているため、公式ホームページへの掲載は終了。「岡垣町 北斗の拳」で検索すると、メディア等に取り上げられ紹介された内容が閲覧できる。